

## 中山町から初のプロ野球選手が誕生！



横山 雄哉さん

中山町出身。左投げの投手で、しなやかな腕の振りから投げ込まれる、力のある時速140kmを超えるストレートが持ち味。「一軍に上がり、地元中山町の県野球場でもプレーしてみたい」と笑顔を見せてくれました。

10月に行われた「プロ野球ドラフト会議」で、阪神タイガースから投手として1位で指名された当町出身の横山雄哉さん（新日鉄住金鹿島）が11日21日、中山町役場を訪れ、森谷副町長に入団の意思を固めたことを報告しました。

ドラフト会議で阪神タイガースから1位指名を受けたこと、入団の意思を固めたことについて報告を受けた森谷副町長は、「中山町からプロ野球選手が出るのは初めてのことで、町民にとっても明るいニュースです。野球少年たちには夢を与えてくれた。プロの世界は今以上に厳しいと思うが、体調に気を付け、けがなく頑張ってください」と激励しました。



この日は、恩師である中山ベースボールクラブ代表の佐竹英規さんとともに役場を訪れました。

また、中山町への帰省直前まで台湾で開催された21U（21歳以下）ワールドカップに参加していた横山さん。森谷副町長が国際舞台の感想を訊ねると、「食事の面で大変でしたが、ワールドカップという大舞台で三振もとれたので手応えを感じた。その一方で課題も見えたので、これから調整していきたい」と初めての海外遠征を振り返りました。



横山さんと一緒に報告に訪れた中学時代の指導者である佐竹英規中山ベースボールクラブ代表が、「横山君は負けん気が強い一方です。思いやりのある選手で、仲間がエ

ラーにしても絶対に責めたりしなかった。これからもチームメイトを大切にがんばってほしい」と言葉かけると、照れたように微笑んでいた横山さん。懇談後のインタビューでは、「ストレートにこだわりたいが、先輩方の技を吸収して変化球も磨いていきたい。子どもたちの目標となるような日本を代表する投手になりたい」と抱負を語り、「自分も小さい頃は上手とは言えなかった。『野球が好き』という気持ちを大切に、挫折してもくじけずに頑張っていきたい」と地元の野球少年たちにエールを送りました。

※12ページの「フレッシュ通信」では、横山さんの素顔に迫ります！

## 冬期間の火災・災害に備えて 冬期日中常備消防開署式



これからは、暖房器具などで火を取り扱う機会が多くなり、火災が発生しやすい季節になります。もしもの事態に備え、町内にいる消防団員が少なくなる日中の消防力の低下を補うため、今シーズンも12月1日から3月10日までの期間、冬期日中常備消防隊を設置し、午前8時30分から午後6時30分までの時間、7名の隊員が常時5名体制で交代で勤務します（日曜日と1月1日から3日を除く）。

これに安心せず、町民の皆さん一人一人が暖房器具の取り扱いや火の始末に十分に注意し、火災を起こさないように気を付けましょう。また、積雪時は、消火栓付近の雪かきを行うなど、消防水利の確保にご協力をお願いします。

## 道路の安全確保に向けて 除雪車出陣式



本格的な積雪シーズンを前に、12月1日、除雪作業の安全祈願と出陣式が町除雪機械格納庫で行われました。

今年も、冬期間における道路の安全を確保するため、26台の作業車が、町道や一部の県道の除雪作業にあたります。

安全祈願と出陣式には、森谷副町長をはじめ町の担当者、協力会社など約20人が出席。神職が除雪車などのおはらいを行った後、関係者が玉串を奉納して作業中の安全を祈りました。

スムーズな除雪作業となるよう、町民の皆さんも道路に雪を出さない、路上駐車をしないなどのご協力をお願いします。

## 京都で町内産のラ・フランスをトップセールス



多くの方に試食していただき、大変好評でした。

11月7日、京都市中央卸売市場において、森谷副町長が町内産ラ・フランスのトップセールスを行いました。

森谷副町長は、卸売市場のセリ台に立ち、中山町が最上川舟運の終点として栄えた町で、京都の面影を各所に感ずることができる町であるということを紹介し、京都文化と深い関わりがあることに触れ、青果会社や仲卸業者に、中山町産のラ・フランスを積極的にPRしました。

また、セリ終了後には小売店の食品売り場で試食販売活動を行いました。試食をした方からは、「とても甘くてとろけるようだ」と大変好評でした。おいしく食べていただけるよう、生産者情報や食べ頃を表示する工夫もあり、売れ行きも好調だったようです。